

- 2030年にSDGsが掲げる17目標を達成するための「行動の10年」がスタートした今年度は、
 - ① 昨年度に引き続き、ヨコハマSDGsデザインセンターが、多様な主体との連携によりSDGsを実感・体感できる様々な試行的取組（パイロットプロジェクト）を、市内各地で展開
 - ② **新たな取組として「横浜市SDGs認証制度“Y-SDGs”」を創設**、金融市場で急速に拡大するESG投資などへの対応や、SDGsをビジネスに活かし持続可能な経営を実現するためのきっかけ作りや成長戦略のためのガイドラインとして初の認証を発行
 - ③ **6月の補正予算では「SDGs biz サポート事業」を実施**、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けながらも、SDGsを活用した事業者の取組を支援するための補助金を交付
- 引き続き、市民・企業・団体・教育機関等の多様な主体による活動を総合的に支援することで、環境・経済・社会の統合的課題解決により「SDGs未来都市・横浜」の実現を目指す。

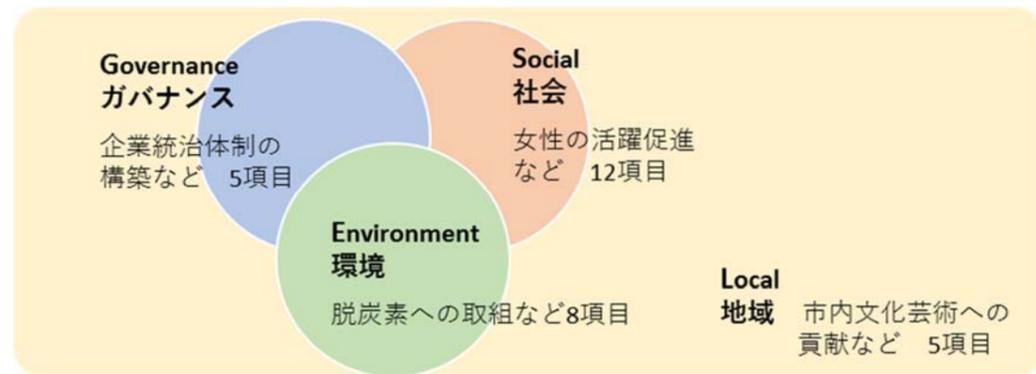
1 横浜市SDGs認証制度“Y-SDGs”

1 対象事業者

SDGs未来都市の実現及びSDGs達成に向けて貢献する意思を持つ事業者（企業・各種団体等）

2 評価項目

環境、社会、ガバナンス及び地域（ローカル）の4分野、30項目で評価実施（8月28日公開）



3 認証区分

各評価項目における取組状況によって3つの区分で認証

認証区分	認証マーク	解説
【最上位】 Supreme (スプリーム)		環境・社会・ガバナンス・地域の4分野において高いレベルで取組を進め、SDGsの達成に向け極めて高く貢献するとともに、模範として更なる高みを目指していただく事業者
【上位】 Superior (スーペリア)		4分野の取組を進めることで、SDGsの達成に向け高く貢献するとともに、更なる高みを目指していただく事業者
【標準】 Standard (スタンダード)		4分野で取組意欲を持って、SDGsの達成に向け貢献するとともに、より高みを目指していただく事業者

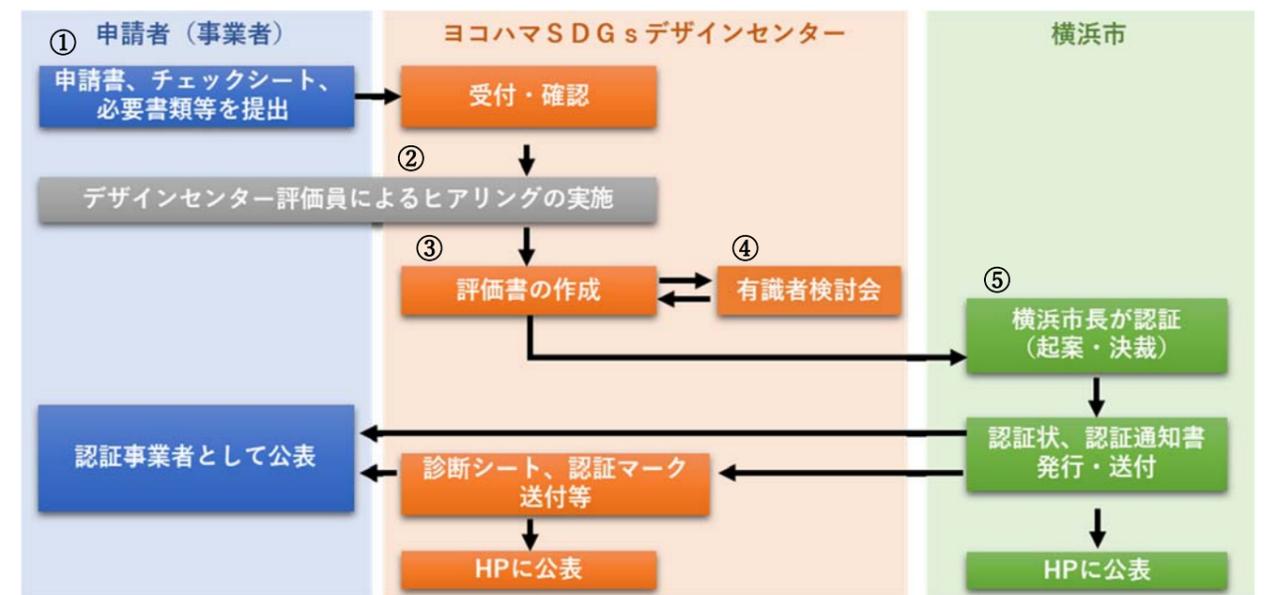
4 認証期間

認証を受けた月から2年間（期間中により上位の認証取得を目指し再度申請することも可能）

5 認証メリット

- ・ 認証マークを名刺や企業等のホームページ等に表示可能
- ・ 認証事業者名や取組内容を、横浜市やデザインセンターのホームページ等でPR
- ・ デザインセンターが開催するマッチングイベントやセミナー等への優先参加
- ※その他金融制度における優遇措置などの追加メリットを検討中

6 手続の流れ



7 第1回認証発行（11月30日公表）

SDGs biz サポート補助金交付対象者及びデザインセンター会員を対象に、第1回の認証を実施
29事業者（SDGs biz サポート補助金交付対象者：20、ヨコハマSDGsデザインセンター会員：9）

認証区分	【最上位】 Y-SDGs supreme	【上位】 Y-SDGs superior	【標準】 Y-SDGs standard	合計
認証数	2	4	23	29

8 スケジュール



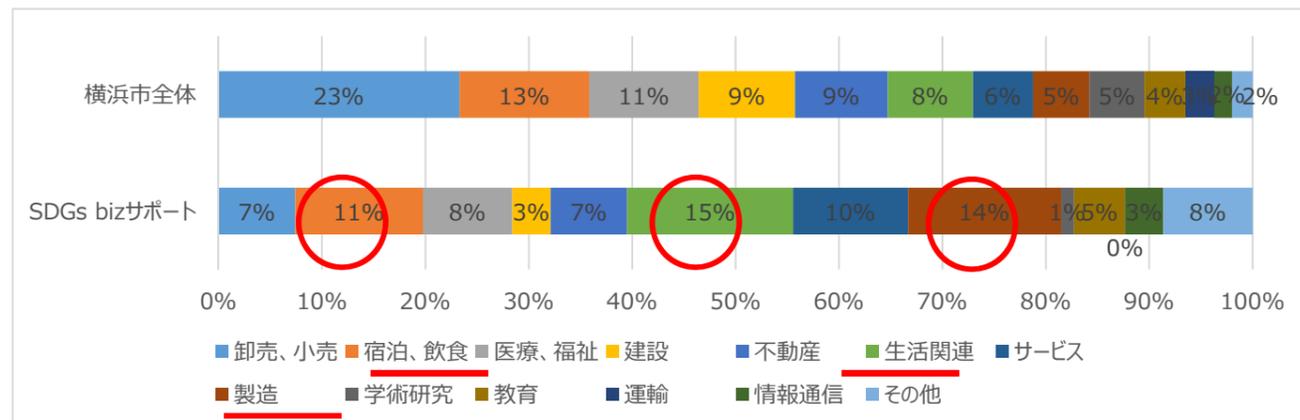
2 SDGs biz サポート補助金 実施状況

(1) 申請・交付の状況 (補助率1/2、上限2,000千円、交付予算額100,000千円)

	申請	交付(予定)
件数(件)	102	87
金額(千円)	110,000	100,606

(2) 交付対象事業者の傾向 (○:多かった業種)

- ・全18区の事業者に交付。
- ・業種分類では、生活関連(廃棄物回収業者等)、製造業、宿泊・飲食(飲食店)が多い。



[事業例]

生活関連業・・・廃プラの循環型リサイクル創出、空き瓶のリサイクル販売、堆肥活用オリジナル野菜開発
 製造業・・・生分解性プラスチックを使用したフェイスシールド製作販売、オンライン工場見学
 宿泊・飲食業・・・フードロス削減環境構築、健康配慮型メニュー開発・販売、テイクアウト素材脱プラ化

(3) SDGs17 ゴール別関連事業数 (□:最も多かったゴール、○:多かったゴール)

・交付要件を「新たな生活様式」への対応としたため、全事業がゴール3(健康・福祉)に関連。

1 貧困をなくそう	1	2 質の高い教育をみんなに	11	3 すべての人に健康と福祉を	87	4 質の高い教育をみんなに	40	5 ジェンダー平等を實現しよう	13	6 安全な水とトイレを世界中に	1
7 持続可能なエネルギー	16	8 働きがいも経済成長も	41	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	22	10 人や国の不平等をなくそう	9	11 住み続けられるまちづくりを	40	12 つくる責任 つかう責任	42
13 気候変動に具体的な対策を	20	14 海の豊かさを増そう	19	15 陸の豊かさも守ろう	16	16 平和と公正をすべての人に	3	17 パートナリシップで目標を達成しよう	49		

[事業例]

- 4 (教育)・・・オンラインセミナーへの転換
- 8 (経済成長)・・・新規ビジネスの創出、販売等
- 11 (まちづくり)・・・コミュニティスペース創出、災害対応
- 12 (つかう責任)・・・プラスチックごみ対応
- 17 (パートナーシップ)・・・製造販売業と学生の連携による新商品開発

(4) 交付対象事業例

一般社団法人 パルジファル

障害者が表現したアートを発信し、ビジネスモデルを創出

障害者が表現した絵画や写真、音楽などを展示。クリニックやカフェで、貸出・展示・買取してもらう。地域に密着した障害者と社会の関わりの創出を目指す。



株式会社 サンフジ企画

国内大手ハウスメーカーの「暮らし」から学ぶSDGs

デザインセンターの試行的取組「SDGsハウス」(IKEA×アキュラホーム)をきっかけに、東北地方の再エネ活用など、総合住宅展示場SDGs発信拠点を創出。



学校法人 国際学園

アフリカとの繋がり、SDGsとのつながりを学ぶオンライン学園祭

学園祭に、アフリカ地域の代表、国連関係者等の参加を得て、世界との繋がりについて学ぶ。SDGsをテーマにプレゼンテーションコンテストを開催。



都筑開発株式会社

(一社)横浜建設業協会 青葉区会

電動自転車を活用した災害時の迅速な対応と街のサイクルステーションの実現

区内の建設事業者が連携し、災害時に危険箇所へ到着できる電動自転車を配備。平常時は住民に電動空気入れを貸し出すなど、サイクルステーションを実現。



株式会社 Triple-ef

子育て世代が通える美容院・コミュニティスペースを地域と連携し実現

ビルの空き部屋を養護学校・定時制高校の生徒及び保護者と改装し、授乳室や遊び場を設置。子育て世代が通える美容院・コミュニティスペースを目指す。



石井造園株式会社

ナラ枯れ被害を防ぎ、横浜の里山を守り、横浜の自然の豊かさを住民と再発見する

散策をしながらナラ枯れの実態を理解し、自然を観察する親子イベントを開催。イベントは動画でも配信し、市民と事業者とともに横浜の自然を考え、守り育てることを考える機会を広く提供する。



宮内建設株式会社

再生可能エネルギー・蓄電池で地域の脱炭素化・防災に貢献

使用電力を再生可能エネルギーに切り替えるとともに、太陽光発電及び蓄電池を設置。平常時は温室効果ガス排出量を削減し、災害時は携帯電話の仮設充電所を地域住民に提供する。

